



越生小学校



5月28日(水)、4年生がふるさと教育の一環で森林体験学習を行いました。越生町域おこし協力隊の方々にご協力いただき、森の間伐をするために木を枯らす作業として皮むき体験をしました。初めての体験に真剣な眼差しで取り組んでいました。

梅園小学校



6月17日(火)に1~3年生が梅干しづくり体験教室を行いました。今年度も保護者の方にお手伝いをしていただき、梅のへたを竹串で取り除いたり、樽に塩と梅を交互に入れてつけたりしました。最後に「おいしくなあれ」とおまじないをかけました。できあがりを楽しみます。

越生中学校

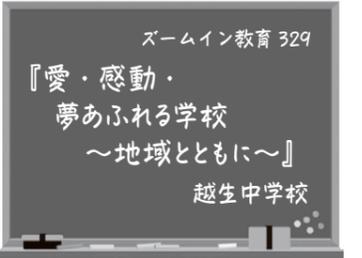


6月19日(木)・20日(金)に、今年で30回目を迎える立志発表会が行われました。自らの進路を考え、自分の将来について熱く語る3年生の堂々とした発表を、参観した1・2年生が憧れの眼差しで見つめていました。

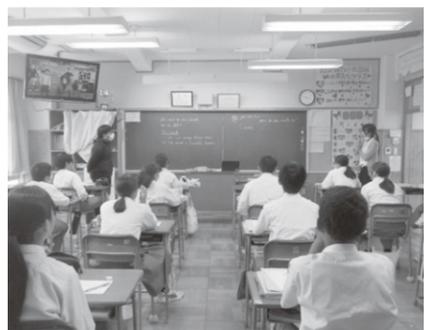


おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加することもたちを写真で紹介するコーナーです。



越生中学校は、本年度、生徒数二百十六名、教職員数三十二名で、教育活動に取り組んでいます。校訓は「立志」、学校教育目標は「自立の力を育む」です。
そして、全ての生徒が笑顔で輝く学校、保護者や地域に信頼され、愛される学校を目指し、全ての生徒が授業や学校行事、部活動等に、それぞれ全力を注いでいけるよう、目指す学校像を「愛・感動・夢あふれる学校」地域とともに「く」としました。
生徒の主眼的な取組を大切に、認め、励ましながら、①志を立て、自ら学ぶ生徒②思いやりと感謝の心を持つ生徒③体を鍛え、がんばり抜く生徒の育成に努めてまいります。多くの卒業生たちが大事にしてきた「越中生としての自信と誇り」は、今も生徒たちの心の中にしっかりと受け継がれています。



がれています。そして上級生が良い手本となり、下級生をやさしく丁寧に導くことも、越生中学校の良い伝統となっています。母校を愛し、ふるさとを愛する心を育て、やがて地域のため、世の中のためになってくれることを願っています。

越生浪漫 No.198

世界無名戦士之墓 落成70年

終戦から80年を迎える今年、町のランドマークとして親しまれている「世界無名戦士之墓」の落成70年にもあたります。
世界無名戦士之墓は当町の医師長谷部秀邦氏(1883~1961)の発願によって建設された第二次世界大戦戦没者の納骨、慰霊施設です。大観山に建つ白亜の装飾が特徴の3階建て構造は、当初

の建設計画図では慰霊塔がそびえる意匠でした。
寄贈資料から新発見
今春、新宿の斎藤敏明さんから財団法人世界無名戦士之墓(本廟)建設奉賛会が趣意書などをまとめた冊子を寄贈いただきました。内容から昭和35年(1960)頃に発行されたものと推測されます。
資料には雑誌『経済時代』(昭和29年6月号)の記事が転載されており、本廟建設当時、大野伴陸国務大臣や山口六郎次衆議院議員らが現地視察のために当町を訪れていたことが判明しました。また、同35~36年にかけて奉賛会による本廟を中心とした附帯施設(参道整備や無料休憩所、宿泊所、観光遊園地など)の

整備が、計画されていたことも明らかになりました。
世界無名戦士慰霊大祭
5月の第二土曜日に行われる世界無名戦士之墓慰霊大祭並びに花火大会は、昭和35年4月5日に初めて「世界無名戦士慰霊大祭」として行われました。当日の映像は16ミリフィルム2巻に、翌年分は1巻に収められています。
掲載した写真
真はそれらの映像から切り出したものです。映像はデジタル化して図書館で貸し出していただけます。ぜひご利用ください。



建設計画図(『世界無名戦士之墓建設趣意書並に概容』より)



▲昭和36年に撮影された世界無名戦士之墓、16ミリフィルムケース3巻



▲(財)世界無名戦士之墓建設会の委員や来賓、風船を空へと飛ばす昇天の儀、参拝者を慰安する演芸会



▲昭和35~36年の新宿町、埼玉県警察音楽隊による行進(本町付近)、続々とやってくる参拝者たち(越生駅)

